

トークセッション

『忘却に抵抗するドイツ』 著者 **岡裕人さん**をお迎えして



シリーズ第三弾

ドイツの“記憶の文化”を考える



8/5
(土)

ドイツの街を歩くと、ナチ時代の歴史を記憶する記念碑に出会います。道端や公園の片隅に、人々の日常の中に、負の記憶が溶け込んでいます。新しい記念碑が今も作られる一方で、向き合い方について議論が起きている”記憶のカタチ”もあります。

昨年、ヒトラーの『我が闘争』が出版解禁。どんな論争が巻き起こったのか・・・？
今年は、ルターの宗教改革 500 周年。反ユダヤ主義との意外な関係とは・・・？

“記憶のカタチ”そのものが、偏見や憎しみを助長するとしたら、私たちは次の世代にいかにつないでいくことができるでしょうか。在独 28 年の歴史研究者である岡裕人さんをお迎えして、9 月に連邦議会選挙を迎えるドイツの今について、お話をお聞きしながら、教育の視点から考えてみたいと思います。

日時 2017年8月5日(土) 午後3~5時30分
会場 学習院大学 北2号館10階 大会議室
JR 山手線「目白」駅より徒歩約5分
対象 高校生以上、どなたでも 定員50名(要申込)
料金 学生無料、一般1,000円
申込 下記のホームページよりお申込みください
<http://www.npokokoro.com/20170805>
主催 ドイツの記憶の文化を考える会
NPO 法人ホロコースト教育資料センター
お問い合わせは、kokoro.org@gmail.com まで



おか ひろと
ゲスト 岡裕人氏

一橋大学大学院社会学研究科
修士課程修了。89年渡独し、
コンスタンツ大学大学院歴史
学科で博士号取得。ベルリンの壁崩壊を見聞
し、以後変革するドイツで歴史研究と教育に携
わってきた。現在フランクフルト日本人国際学
校事務局長。主な著書に『忘却に抵抗するドイ
ツ - 歴史教育から「記憶の文化」へ』(大月書
店)、『「ホロコーストの記憶」を歩く- 過去をみ
つめ未来へ向かう旅ガイド』(子どもの未来社)。

